

CP932 (コードページ 932) とは、Shift JIS にベンダ定義外字を独自に付け加えた実装のひとつです。Microsoft Windows に見られます。

MS932, Windows-31J などの名前で参照されることもあります。

下記に挙げるような様々な問題を持っているので、使用すべきではありません。JIS X 0213 の Shift JIS-2004 を用いる必要があります。

## CP932 の問題

- ・ 文字化けの原因
- ・ JIS X 0208 の空き領域を勝手に使っており、JIS X 0208 で規定されるシフト JIS の規格に適合しない
- ・ JIS X 0208 との不整合 (既存の符号位置に包摂されるべき字体にも無秩序に符号位置を割り当てている)
- ・ Unicode との変換が間違っている波ダッシュ問題
- ・ Shift JIS-2004 と食い違う
- ・ 同じ記号を複数の符号位置に割り当てる重複符号化を行っている
- ・ 文字選定の理由が不明。JIS X 0213 の開発時、ベンダに追加文字の典拠を要請したが回答がなかった由
- ・ ベンダ中立な公的規格でないプロプライエタリな実装
- ・ 現代日本のテキストを符号化するには文字が足りないという JIS X 0208 の課題を解決していない。例えばアイヌ語に使われる文字に対応していない

## JIS X 0213 に取り入れられた CP932 の文字

13 区の記号類、例えば丸付き数字やローマ数字、「TEL」などの組み文字はそのまま JIS X 0213 の漢字集合 1 面に取り入れられています。

このため、Windows のメモ帳でこれらの文字を「ANSI」(実際には外字付きのシフト JIS) として保存したファイルは、そのまま Shift JIS-2004 のテキストファイルとして扱うことができます。

## 関連項目

- ・ 外字
- ・ 国内実装互換
- ・ Shift JIS
- ・ Shift JIS-2004